

福津の今昔

～変わる風景 変わらない風景～

久しぶりに訪れてみると懐かしさを感じるふるさとの風景。以前、田畑だった場所や鉄道が通った道は住宅が建ち並び、街並みや景観は大きく変わってきました。今、当たり前^{たど}にそこにある風景の写真を見ながら、その歴史を少し辿ってみましょう。



◀山に向かって右側の線路跡地には新しい住宅が建ち並び、線路が通っていた面影はありません。でも、その先にそびえる在自山のシルエットは、昭和30年ごろと比べても、ほとんど変わっていません



◀昭和40年代後半には駅舎が改築されました。このころから周囲に住宅が建ち始め、山に向かって左側の住宅街は今も「西鉄団地」と呼ばれています



◀昭和30年ごろの西鉄福岡駅。木造の駅舎で、周囲はまだ住宅開発がされておらず、松林に囲まれています



西鉄福岡駅は、平成19年に西鉄宮地岳線が廃線となったことで、惜しまれながら廃駅となりました。駅があった当時から近所に住んでいた人に話を聞くと「子どもたちが通学に西鉄電車を利用して、線路沿いにはツクシが生えていて、15分おきに電車が通り過ぎたのを見計らって取りに行っていたのが懐かしい」と、今は住宅となった線路跡を偲んでいました。